

マネージメント情報 1月 2016年

繁殖ベンチマーク ー平均初回授精開始日と妊娠率ー

前回はベンチマークとしての妊娠率について考えました。今回は、平均初回授精開始日の分布と、その妊娠率への影響度を考えてみましょう。

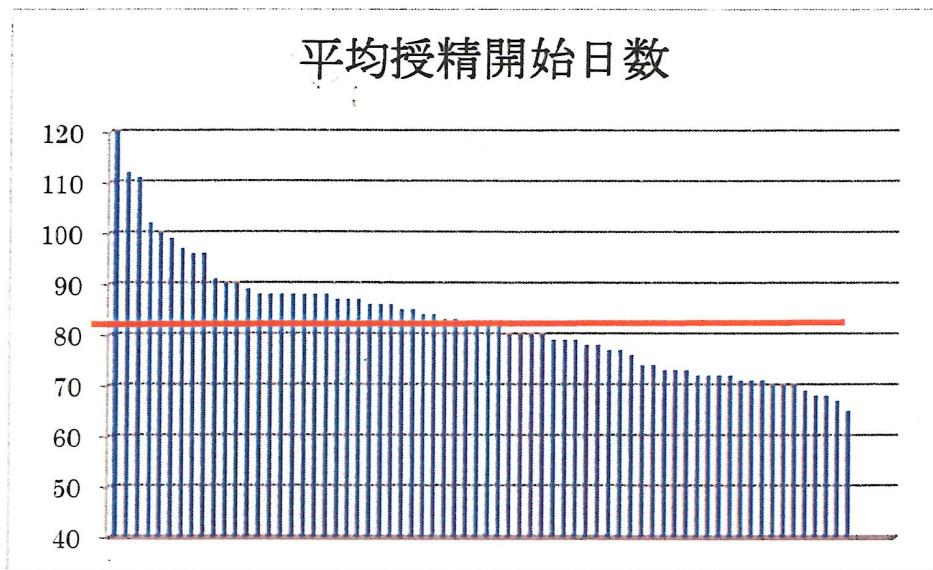


図 1

図 1 は平均授精開始日が遅い順に並べています。皆さんの農場はどのあたりでしょうか? この単純平均日数では 82 日となっています。今度はこれを妊娠率との相関図で見てみましょう。

妊娠率(妊娠スピード)と初回授精開始日

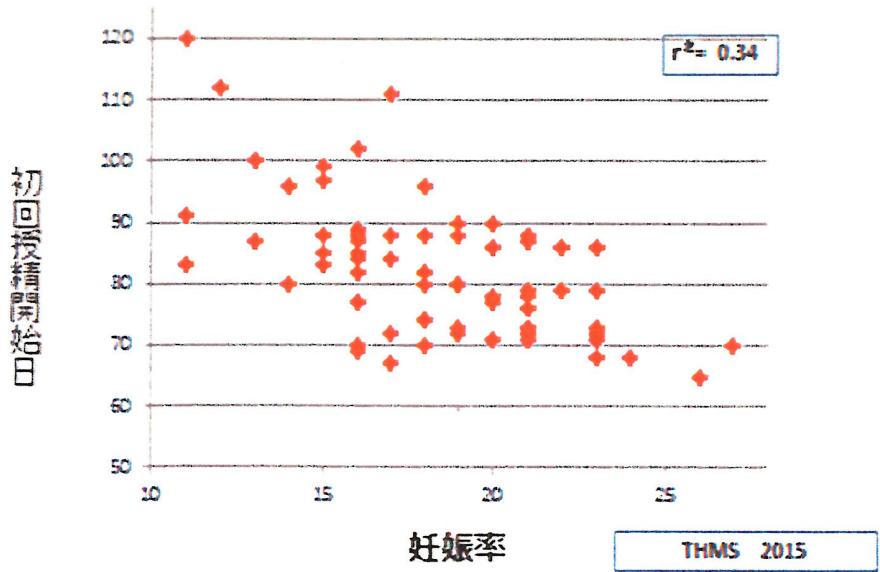


図 2

図 2 は妊娠率が横軸に初回授精開始日が縦軸にプロットされています。同図は右肩下がりになっているのが見られますね。妊娠率のよい農場では、平均の授精開始日が早ま

る傾向のあることがわかるでしょう。Rの二乗(r^2) = 0.34となつてますね。はつきりとした相関があるレベルとはいえないのですが、その妊娠率への寄与率(影響度)は、30 数%あると考えることができます。例数がもっと多くなれば間違いなく相関があるものと面れます。平均授精開始日にもっとも影響するのは、乾乳から周産期そして、ピーク乳量までの飼養管理です。もし、この平均授精開始日が80日以上になっている農場は、最寄りの獣医師といっしょにその理由を考えてみましょう。

皆さんの農場の平均授精開始日をもう一度確認してみてください。

黒 崎

牛に感謝

子供のころ、獣医師になろうか酪農家になろうか、ずいぶん長い間迷っていたことを記憶している。家は酪農家として牛を十数頭飼いながら、おやじは獣医師だったからそのどちらかにならなければと子供心に考えていたのかもしれない。それでも、中学一年生の終わりころには、牛の獣医師になろうと心に決めていたのを覚えている。従って、ずいぶん長い間迷っていた時期は、おそらく小学生の時だったことになる(笑)。家には牛も馬もいて、家畜に触れながら育ったし、周囲もまたみな酪農をいとなんていした。田舎で目立つ職業がそうそうたくさんあるはずもなく、職業にたいする雑音がすくなかったこともあるが、おやじの診療バイク(メグロの250cc:当時はとても大型のバイク)とガラス製で牛革ケースにいれられた100ccのどでかい注射器に恐れと憧れがあったように思う。

牛たちは搾乳後、山に放牧された。途中、山の下を流れる小川で水を飲ませてから山上まで追い上げるのが私の夏の朝の仕事だった。澄んだ水面にむけて伸ばしたのどを波打たせながら「ズー・ズー・」と飲む牛の姿を眺めるのが大好きだった。冬は舎内につながれたままになるのがかわいそうに思えたが、越冬用に収穫してあったカブやビートを、涎を「ダラーダラ」垂らしながらいかにもうまそうに喰べるのを飽きずに見ていた。春が来て、明日から牛を外に出せるという日は、ウキウキした気分になったのを覚えている。翌日、牛は半年ぶりの外気と地面を最初は慎重に確認したあと、一気に「ピヨーンピヨーン」と跳ね回るのを見るのは、一年に一度しかない楽しみだった。小さいときから刷り込まれた牛の喜ぶ姿が今の自分や仕事場を作ってくれたのだと、今になって思う。

その頃、10数戸あった地域の酪農家は、自分の家も含め、今はもうすべて離農している。でも、そこに戻ると時間が止まったようにあのころに戻ることができる。牛を追い上げた山も川も牛舎のあとも、時間がとまったようにそこにある。飼養形態はどんなに変わっても、求める牛の姿はかわらない。

牛を通した出会いを積み上げて今の自分がある。牛と故郷そして牛飼いたちに心から感謝したい。

黒 崎